

写真展示のご案内「'96 マレー鉄道の旅」



会期 2020年7月18日土曜～8月16日日曜

場所 渋谷区神泉8-1 鈴屋ビル一階 **SIBUYA OPEN CAFE**

1996年、旅の写真を撮るのが仕事では無いものの、新たな分野の写真だとの思いを込め計画を経てた。「マレー鉄道の旅」シンガポールからマレーシア（マレー半島）へそしてタイのバンコク・アユタヤまで、列車での旅。

テーマをそこに生きる人物、子供や家族の日常の姿をスナップすると決め、36枚撮りモノクロフィルム30本程をバックに摘めて出発。

プリントは、夜な夜な写真の仕事の合間に、その当時のイルフォードの印画紙に焼き付けたものをそのまま展示させて頂きました。

セーフティーライトが現像液に赤く揺れる暗室の愉しき時間が当時の思い出として浮びあがる。思えば早いもので間もなく25年四半世紀、ここに写る12・3歳ほどの子供たちは、既に40歳近いという事になり、私が旅した時の年齢と同じ世代という事だ。

一押しシャッターごとに決定を繰り返す撮影は、対比する被写体と心の勝負をするかのように写真の面白さが味わえた時間だった。

撮影本数は21本その中から22点の写真を展示させて頂いた。これまで人前に出る事が無かった、未公開写真達を皆様にご覧頂けたら幸いです。

【高尾 啓介（タカオ ケイスケ） プロフィール】

1958年佐賀県生まれ JPS 日本写真家協会会員 東京都葛飾区在住 佐賀龍谷高校～中央大学とアマボクシング選手（国会3位）としてリングに上る。選手経験を活かし1982年後楽園ホールでの大学ボクシングリーグ戦より写真活動開始。全国高校大会の撮影を始める。

1992年目黒区に(有)フォトグラフィオフィスタカオ設立後、書籍印刷物等の撮影を手掛ける。

主な刊行書「目で見えるボクシング」齋藤 義信監修、「図解ボクシング」ファイテング 原田監修（成美堂出版刊）他スポーツ入門書等写真担当。

主な著書に2006年「この道一筋」高校ボクシング指導者の横顔2012年「メダリストへの道」五輪に挑むボクサー達の肖像共に石風社刊

2019年「AFTER THE GONG」今を生きるアマチュアボクサー達の肖像忘羊社刊。現在 オフィスタカオ代表として活動中

展示写真データー カメラ ニコン FM2 レンズ 50mm f 2.8 ・ 35mm f

フィルム ILFORD HP5PLUS ペーパー ILFORD RCDELUXE MGIII



SIBUYA OPEN CAFE SUZUYA ビル 1f 営業時間 12時～24時
道玄坂上交差点と神泉町交差点の中間付近、マークシティ出口～徒歩8分